

令和7年度 事業報告書

1. 法人の概要

(1) 基本情報

①法人の名称	学校法人松本昭和学園
②所在地	松本市里山辺 4202
TEL	0263-32-3701
Fax	0263-35-9080
e-mail	office@excellent.ed.jp

(2) 建学

本学は、創立者の故土手内頼人が戦後復興を子供たちに夢を託して、昭和27年松本市東町に長野県公認文化華道学院を設立し、「花を愛し美を創造する豊かな感性を培うと共に思いやりの心を育み責任感の旺盛な実践力のある人材の育成」を建学の精神に据え、学校づくりに励み、普通科・美術科・福祉科の3科を持つ学校へと発展させて来た。生徒が建学の精神のもと「豊かな心と身体を持つ人物」に育つための学びが十分に出来る教育環境を提供すること、そこで働く先生方や職員が「健康で明るく余裕をもって仕事に臨める」ことを肝に銘じて学園づくりをしている。

(3) 学校法人の沿革

昭和27年4月	長野県公認文化華道学院設立 松本市東町 学院長 土手内頼人(喜多原頼園)
昭和28年6月	学校名変更 松本高等家政学校
昭和35年4月	校舎移転 松本市里山辺(現在地) ・ 校名変更 昭和高等実業学校
昭和41年10月	体育館落成
昭和43年11月	学校法人松本昭和学園 設立認可 ・ 理事長 土手内頼人 就任
昭和43年12月	昭和園芸高等学校 設置認可 ・ 初代校長 土手内頼人 就任
昭和44年4月	昭和園芸高等学校 第1回入学式挙行 第2代学校長 上島周蔵 就任
昭和47年1月	第3代学校長 飯沢義衛 就任
昭和47年3月	第1回卒業式挙行
昭和49年10月	高等学校昇格5周年記念事業 校歌制定
昭和59年4月	第4代学校長 御子柴秀雄 就任
昭和61年4月	第5代学校長 栗田英玄
昭和62年1月	西校舎増改築
平成元年4月	創立35周年・高校昇格20周年記念事業式典挙行 (東校舎落成)
平成4年4月	第6代学校長 小林啓章就任 合宿研修棟・園芸実習棟落成式典挙行
平成5年4月	文部大臣表彰(国体運営貢献;花種子贈呈)
平成7年5月	海外研修旅行実施(韓国)
平成8年4月	南校舎(普通教室棟)落成式典挙行
平成9年4月	第7代学校長 降旗宗雄 就任
平成10年4月	創立45周年・高校昇格30周年記念式典挙行
平成11年4月	校名変更 →エクセラン高等学校 普通科 →コース改編(生活園芸・環境園芸・生活文化・国際文化・社会福祉)

	美術科 →設置
平成 12 年 5 月	海外研修旅行目的地変更(オーストラリア)
平成 12 年 7 月	創立者土手内頼人理事長逝去 第 2 代理事長土手内始男就任
平成 12 年 7 月	厚生大臣表彰(献血協力貢献)
平成 13 年 1 月	美術科海外研修旅行実施(フランス)
平成 13 年 4 月	福祉科 設置 (普通科; 社会福祉コース廃止)
平成 13 年 5 月	海外研修旅行ホームステイ実施(オーストラリア)
平成 14 年 4 月	第 8 代学校長 武藤行雄 就任 制服全面改定
平成 14 年 6 月	美術科教室増築及び情報教室全面改築
平成 15 年 11 月	創立 50 周年記念式典 挙行
平成 17 年 12 月	高大交流協定締結(長野大学社会福祉学部)
平成 19 年 4 月	第 9 代学校長 須澤真広 就任
平成 19 年 6 月	国土交通大臣表彰(緑化推進)
平成 20 年 1 月	第 2 代理事長土手内始男 逝去 第 3 代理事長栗田英玄 就任
平成 20 年 11 月	海外研修旅行目的地変更(ハワイ)
平成 21 年 4 月	福祉系高等学校(介護福祉士養成)指定認可
平成 22 年 3 月	高大連携協定締結(松本大学・松商短大)
平成 22 年 4 月	第 10 代学校長 五味秀彦 就任
平成 22 年 9 月	創立 60 周年記念事業(校舎耐震補強)
平成 23 年 4 月	創立 60 周年記念事業(制服全面改定)
平成 23 年 11 月	海外研修旅行目的地変更(サイパン)
平成 24 年 4 月	普通科コース改編(園芸農業・生活文化・環境科学・国際理解)
平成 24 年 10 月	福祉科ノーフュンス高等学校(デンマーク王国)と交流
平成 24 年 11 月	創立 60 周年記念式典 挙行
平成 24 年 11 月	海外研修旅行目的地変更(台湾) 国立彰化女子高級中学校と姉妹提携
平成 26 年 4 月	第 11 代学校長 安藤善二 就任
平成 26 年 6 月	第 4 代理事長 五味秀彦 就任
平成 28 年 3 月	女子寮閉寮
平成 28 年 11 月	校地取得(東側住宅地 3 軒)
平成 28 年 12 月	「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」 内閣府担当大臣賞受賞 環境科学コース
平成 29 年 3 月	「REHSE」発表会(東京大学)最優秀賞受賞
平成 29 年 6 月	第 5 代理事長 本郷一彦 就任
令和元年 8 月	創立 70 周年記念事業スタート(校地取得・福祉科教室改修)
11 月	福祉科研修旅行(デンマーク王国)・美術科研修旅行(パリ再開)
令和 2 年 4 月	第 12 代学校長 西沢 宏 就任
令和 3 年 3 月	福祉科教室改修工事完工
令和 4 年 11 月	学校創立 70 周年記念式典挙行
令和 5 年 10 月	福祉科ノーフュンス高等学校(デンマーク王国)と交流
令和 6 年 2 月	校地取得(里山辺 4206)
令和 7 年 6 月	第 6 代理事長 安藤善二 就任

(4) 設置する学校等

エクセラン高等学校	全日制課程	普通科
	全日制課程	美術科
	全日制課程	福祉科

(5) 学生数の状況

令和7年度入学生数

令和7年5月1日現在

科	募集定員	入学者数	学則定員
普通科	90	72	90
美術科	15	17	20
福祉科	15	7	20
計	120	96	130

在学生数

令和7年5月1日現在

科	1学年	2学年	3学年	計
普通科	75	97	87	259
美術科	17	9	17	43
福祉科	7	6	6	19
計	99	112	110	321

(6) 卒業生数

(令和7年4月1日現在)

文化華道学院・松本高等家政学校・昭和高等実業学校	532名
昭和園芸高等学校	1,919名
エクセラン高等学校	2,333名
卒業生総数	4,784名

(7) 充足率(%) (在籍数÷募集定員数×100)

令和7年5月1日現在

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
普通科	100.4	92.9	90.0	99.6	110	83.3
美術科	84.4	84.4	91.1	102.2	73.3	113.3
福祉科	62.2	73.3	73.3	55.6	26.6	46.6

(8) 役員の概要

	定員	現員数	欠員数
理事	7	7	0
監事	2	2	0

16期役員氏名 (令和7年6月1日～令和11年5月31日)

令和8年3月31日現在

区分	氏名	摘要
理事長	安藤善二	令和7年6月就任 理事長 当人と利害関係なし

1号理事	西 沢 宏	令和2年4月就任	学校長	当法人と利害関係なし
2号理事	安 藤 善 二	令和7年6月就任	3期目	当法人と利害関係なし
〃	草 間 龍 也	令和7年6月就任	5期目	当法人と利害関係なし
〃	小 林 眞 一	令和7年6月就任	1期目	当法人と利害関係なし
〃	小 林 磨 史	令和7年6月就任	3期目	当法人と利害関係なし
〃	花 岡 豪	令和7年6月就任	2期目	当法人と利害関係なし
〃	横 林 和 俊	令和7年6月就任	1期目	当法人と利害関係なし
監 事	飯 沼 正 明	令和7年6月就任	1期目	当法人と利害関係なし
〃	富 永 正 道	令和7年6月就任	5期目	当法人と利害関係なし

(9) 評議員の概要

(任期；令和7年6月1日～令和11年5月31日)

定数； 12名 欠員0名 現員数 12名

相澤 孝夫	伊藤 覚	大久保昭文	上條 守広
川井 里美	柴崎 真一	戸谷 典孝	西森 尚己
保尊 権一	宮川みさ子	宮澤志づ江	百瀬 正容

(10) 令和7年度職員の概要

令和7年5月1日現在

区 分	教 員	職 員	校医薬・他	合 計
常 勤	28	6	0	34
非常勤	8	1	8	17
計	36	7	8	51

(11) 施設設備の概要

令和8年3月31日現在

区 分		面積(m ²)	適用
校 地	保有地	9203.48	
	借用地	3656.4	
建 物	校 舎	6515.48	
	その他	428.90	

(12) その他

- (1) 姉妹校 国立彰化女子高級中学校 (台湾彰化県彰化市光復路62号)
(2) 高大連携 長野大学・松本大学・松商短大

2. 事業の概要

(1) 教育方針や重点課題に関して

① インクルーシブな環境ときめ細やかでていねいな指導

従来から、多様な生徒を受け入れ(インクルーシブ教育)、生徒一人一人の成長と自立を支援するため、少人数の学習集団で体験的・総合的な学習活動を実践してきた。永年継続して来たこの教育方針は、中学校や地域社会からも一定の評価と理解が得られている。

② 教育課程の特色について

教育方針を具現化するため、少人数の学習集団による授業を実践してきた。定員15名

の福祉科、美術科はもちろん少人数講座だが、定員 30 名の普通科では習熟度別授業も取り入れ、わかりやすい授業を展開している。また、2 年生からは普通科では 4 コース、美術科では 4 専攻に分かれた授業を実施し、生徒一人一人の個性の伸長に努めている。なお、令和 7 年度には、普通科の「総合的な探究の時間」の見直しを行い、普通科のコース制のあり方についての検討、研究も始めた。

③ 研修旅行および国際交流について

従来、本校では、「実体験を伴うあらゆるところが学ぶ場所である」の教育方針にもとづき、海外研修旅行を重要な教育活動として位置付けてきた。しかし、令和 2 年度に新型コロナウイルスの影響で中止されてからは、旅行費用の高騰もあって、海外ではなく国内研修旅行を実施するようになり、令和 4 年度以降 3 科ともに長崎研修旅行を実施している。

なお、海外研修実施時に交流があった台湾の関係者が、令和 7 年 12 月台湾の高校生を引率して松本を訪れ、本校生徒たちと交流している。

④ 施設設備の充実について

「教育環境の整備は最重要課題」ととらえ、法人の安定的な経営を見通しながら、周年事業の一環として充実に努めてきた。空調設備やトイレ等の施設設備の延命化を図りつつ、教育環境整備を計画的に進めていく。令和 7 年度には、園芸実習棟及びビニールハウスを新設し、屋外運動場建設に向けた設計を進め、中長期計画で重点目標に挙げてきた校地の拡充等の整備を進めている。

(2) 諸団体への支援・協力について

① P T A ・ 振 興 会

P T A ・ 振 興 会 総 会 に は、半 数 以 上 の 会 員 が 参 加 す る 状 況 が 定 着 し て い る。多 くの 保 護 者 が、文 化 祭 ・ ミ ュ ー ジ ッ ク コ ン テ ス ト ・ 強 歩 大 会 等 生 徒 の 活 動 に も 参 加 し て、学 校 の 状 況 や 指 導 方 針 を よ り 深 く 理 解 し て い た だ い て い る。ま た、P T A 総 会 や 研 修 (令 和 7 年 度 は P T A ス ポ ー ツ 交 流 会) 等 を 行 っ て い る。

振 興 会 は、卒 業 生 の 保 護 者 が 中 心 と な り 本 校 の 教 育 環 境 整 備 を 目 的 に 結 成 さ れ た 組 織 で あり、校 舎 の 改 築 や 校 地 の 拡 充 の た め の 資 金 を 計 画 的 に 積 み 立 て て い る。

② 同窓会活動

同 窓 会 総 会 (例 年 7 月 の 文 化 祭 当 日 に 実 施) 等 活 動 へ の 参 加 者 数 は け っ し て 多 く は な い が、文 化 祭 や そ れ 以 外 の 日 に も 母 校 を 訪 れ る 卒 業 生 は 多 く、卒 業 後 も 母 校 へ の 関 心 と 愛 着 は 強 い と 思 わ れ る。次 の 周 年 事 業 を 進 め る う え で も、役 員 体 制 の 整 備 や 同 窓 生 の 連 絡 先 把 握 を 丁 寧 に 進 め る 必 要 が あ る。

③ 花いっぱい運動

松 本 で 始 ま っ た 花 い っ ぱ い 運 動 に は、本 学 園 創 立 者 の 故 土 手 内 頼 人 氏 の 熱 心 な 取 組 が 大 き な 推 進 力 と な っ た。学 校 の 教 育 理 念 と 相 通 じ る こ と も あり、花 壇 の 管 理 や 助 言、さ ら に は フ ラ ワ ー コ ン テ ス ト、花 壇 コ ン ク ー ル 等 各 種 審 査 員 の 派 遣 等、積 極 的 に 関 わ り を 持 っ て き た。現 在 も、本 学 園 理 事 長 が 花 い っ ぱ い 運 動 理 事 会 の 参 与 を 務 め て い る。今 後 も、地 域 に 開 か れ た 学 校 づ く り の 意 味 か ら も さ ら に 大 切 に し た い。

④ 松本芸術文化協会

第 2 代 理 事 長 故 土 手 内 始 男 (白 樹) 氏 が 日 本 画 を 修 め、美 術 科 誕 生 の き っ か け に も な っ た こ と も あ っ て、松 本 芸 術 文 化 協 会 の 活 動 を 支 援 し て き た。芸 文 協 の 理 事 を は じ め 各 種 展 覧 会 の 審 査 員 と し て 本 校 教 員 が 積 極 的 に 関 与 す る こ の 活 動 を 支 援 す る こ と は、文 化 の 発 信 基 地 と し て の 存 在 意 味 か ら も 大 切 で あ る と 考 え る。

(3) 広報活動について

日頃の活動状況を発信し、地域社会の方々に理解を深めてもらう広報活動は、本法人にとっても重要な意味をもつものである。従来、様々なメディアを通じた紙媒体中心の広報活動を行ってきており、令和7年度も下記の取組を継続して実施した。

- ① 学校アピール広告(美術科卒業展) MGプレス
- ② 入試告知広告 信濃毎日新聞・市民タイムス・タウン情報
- ③ 儀礼広告(年賀・暑中見舞い) 信毎・市民タイムス・県民新聞
- ④ その他 学校の様々な教育活動や生徒の活躍をニュースとして発信

なお、ホームページの活用や公式インスタグラムの開設、活用も進めており、紙媒体による広報活動を補完している。

(4) 各科の学習活動の概要

① 普通科

- 生徒自らが、学校は有意義な場所であると自覚できる教育を展開する。
- 楽しくわかる授業を実践し、学び合うことを味わえる集団づくりや人間関係づくりを重視する。
 - (a)すべての生徒に基礎学力を定着させる授業力向上をめさす。
 - (b)対人力に欠ける生徒の社会適応力を養成していく。
 - (c)進路目標達成を支援していく。
- 「園芸農業」「生活文化」「国際理解」「環境科学」4コース制を充実さえ、生徒の個性を伸長させる。

ア. 園芸農業コース

《年間活動目標》

- ・園芸知識と技術の習得及び基本的な生活習慣の確立
- ・活動の継続と新たな取組
- ・近隣市町村への広報活動
- ・校内の各科、コースとの連携
- ・建学の精神の継承

《具現化に向けた活動の取組状況》

- ・女鳥羽川や伊勢町せせらぎでの活動（令和5年度以降）の継続にとどまらず、源池井戸周辺の清掃、新伊勢町の花壇整備等新たな活動にも取り組めた。
- ・福祉科と連携した介護施設での花壇定植や子ども食堂への米の寄付等を行った。
- ・ラベンダーや山辺藍の栽培等新たな取組（仮称エクセラン・ブルー計画）を始めた。

イ. 生活文化コース

《年間活動目標》

社会の担い手として必要な知識と技能を持ち、人との繋がりを大切にできる人間を育成する。

《具現化に向けた活動の取組状況》

- ・2年生では基本的な技術の習得、3年生では生活力・人間力の育成を目標に取り組んだ。
- ・地域との交流は、「ゆかた DE ゴー」への参加を継続する中で、新たな取組（盆踊りや百竹亭での茶席接待）もはじめ、生徒の成長につながった。
- ・介護福祉を履修し、介護職員初任者研修修了の資格取得をする生徒が増加した。

ウ. 環境科学コース

《年間活動目標》

足で稼ぐ、データの量をなるべくたくさんとる。

《具現化に向けた活動の取組状況》

- ・フィールド調査を積極的に行うことを重点とした。3年生では長野市まで調査範囲を広げて、水生生物調査を行った。
- ・従来行ってきた安曇野環境フェアでの発表に加えて、高校生探Qフェスでの発表も行った。

エ. 国際理解コース

《年間活動目標》

「体感」による「理解」から「共生」を考える

- ・世の中にさまざまな人がいるということ、実際に彼らと触れ合う機会を通じて理解する。
- ・世の中にさまざまな課題が存在していることを自ら探究し、まとめる学習を通じて理解する。
- ・さまざまな人と支え合いながら共に生きていく共生の心を育む。

《具現化に向けた活動の取組状況》

- ・外国人講師による授業（アクティブ・イングリッシュ、韓国語講座）により、異文化を体感的に理解できるようにしている。
- ・韓国の高校生との交流や学習成果発表会での新企画など新たな取組も行い、生徒の学習意欲を高めている。

② 美術科

- アーティストとしての土台づくり（美大進学への基礎作り）を目指す。
- 芸術に興味関心がある生徒に素描や各分野の基礎を定着させ、表現活動を通じ、創造性と感性豊かな人格形成を目指す。

ア. 美術科の年間活動目標

新しい景色を見よう

- ・作品作りは人間作り
- ・価値を創造する
- ・主体的に動ける人間になる

イ. 本年度の重点課題と具現化する取組の達成状況

- ・社会参画に向けて 基礎基本の徹底
授業・美術科行事に休まず取り組むことを徹底し、卒業時まで基礎基本を定着させることに重点を置いた。
- ・放課後の学習活動の充実
美術部としての活動や地域からの依頼があった制作（大絵馬制作、黑板アートなど）にこれまで以上に取り組むことができた。
- ・自己実現への支援
希望進路実現のためにこれまで以上に進学指導、相談に力点を置く。結果的に、2名の国公立大学合格（信州大学・愛知県立芸術大学）を達成した。
- ・各種公募展入選の成果
全国総文祭出品（全国で20名の奨励賞受賞）、国際美術展上位入選など、今年も多く生徒の作品が評価された。

③ 福祉科

- 介護福祉士の養成（国家資格取得）。介護技術の習得と福祉の心を養成する。
- 福祉学習を通し、社会に貢献できる人材を育成する。
 - (a)福祉に携わるのにふさわしい人格の養成。
 - (b)積極的にボランティア活動に参加し、地域社会に貢献する。
 - (c)効率的な介護福祉士国家試験の受験学力の養成。

ア. 福祉科の年間活動目標

人にはやさしく あたたく 自らは厳しく 正しく

- 《重点目標》
- ・体験学習から自ら考える力を育てる。
 - ・生徒確保に力を入れる。
 - ・国家試験に対応できる学力を身につける。

イ. 具現化する取組の達成状況

- ・実践的な力をつけるため、講習会や外部講師による実技講習等を増やした。
- ・地域との交流をすすめるため、松本養護学校との交流会（年2回実施に）、三世代交流会などを実施した。子ども食堂でのボランティアも積極的に推進した。
- ・福祉科イベント（7月イオンモール）はクラウドファンディングも実施して2回目を実施した。福祉人材の育成に寄与する活動と評価され、「信州教育の日」でも発表の機会が与えられた。
- ・入学者数は、令和4,5,6,7,年度の4年間は、定員の50%を下回っていたが、令和8年度入試でようやく12名入学（定員-3）となった。
- ・北信越介護技術コンテストを勝ち抜き、初めて全国大会に出場した。
- ・介護福祉士の合格率も確実に向上しており、新カリキュラムが導入される平成23年以前の平均24.6%に対し、平成23年以降は89.2%に達している。令和7年度も全員合格を達成した。

参考資料（介護福祉士国家試験の現役合格率）

卒業年度	入学者数	卒業者数	卒時合格数	合格率	備考	取得令8.3.31
平成15	7	6	0	0%		1
平成16	5	4	1	25.0%		1
平成17	7	6	2	33.3%		2
平成18	13	5	1	20.0%		1
平成19	8	9	3	33.3%		3
平成20	10	8	1	12.5%		4
平成21	12	10	3	30.0%		9
平成22	7	5	2	40.0%		4
平成23	11	7	5	71.4%	新カリ移行	6
平成24	18	18	10	55.6%		13
平成25	13	11	11	100%		11
平成26	21	21	16	76.2%		17
平成27	14	13	13	100%		13
平成28	17	15	14	93.3%		14
平成29	9	9	8	88.9%		9
平成30	17	14	13	92.9%	受験者14	15

令和元年	11	7	6	85.7%		6
令和2年	10	8	6	100%	受験者 6	8
令和3年	9	5	5	100%	受験者 5	5
令和4年	14	13	13	100%	受験者 13	13
令和5年	14	13	11	84.6%		11
令和6年	7	4	3	100%	受験者 3	3
令和7年	6	6	6	100%	受験者 6	7
計	260	217	153	70.5%		175
新カリ以降	191	157	140	89.2%	平成23年以降	151

④ 指導力のある教育職員の育成

入学してくる多様な生徒（不登校生、特別支援学級在籍生徒、外国由来の生徒等）一人一人に、わかりやすい授業を展開したり、生徒の悩みや不安に寄り添いながら自己実現を図ったりしていくには、相当の指導力、教員としての力量が求められる。従来から行っている生徒理解研修やICT活用研修など実践的な研修の機会を通じて、教育職員の力量を高める努力をさらに進めていく必要がある。あわせて、「働き方改革」の一環として、教育職員の士気を維持しながらの勤務時間適正化も進めていく。

なお、令和7年度末には常勤教員2名、非常勤講師1名の退職者があったため、令和8年度には常勤教員2名、非常勤講師1名を新規採用した。

⑤ 開かれた学校づくりの取組

ア. 地域に貢献し、地域とともに歩む学校づくりを進めている。本年度も、下記のような活動を通じてエクセラン高校の存在を地域にアピールした。

学校全体…花種子の松本市・安曇野市・塩尻市への贈呈

園芸農業コース…市内各地の環境整備（女鳥羽川・伊勢町）、花壇定植（小学校・消防署・福祉施設・松本駅・新伊勢町）、苗市、寄せ植え販売

生活文化コース…ゆかたキャンペーンへの協力

環境科学コース…キャンドルナイト、小学生への環境教育、安曇野環境フェア

美術科…黒板アート制作、大絵馬制作（護国神社）、信毎メディアガーデンでのイベント、卒業制作展・美術科展

福祉科…福祉人材育成の取組（松本市、社協、松本短大等との連携）、福祉科イベントの実施、ボランティア活動（子ども食堂など）

イ. 学校評価について

学外の7名に評価委員を委嘱し、年2回それぞれの立場から授業及び行事・生徒会活動や生活面、生徒の学外活動等について率直な意見や評価をいただき改善に生かしている。